

## 第1回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 議事録

- 開催日時：令和3年8月18日（水）13:30～15:30
- 開催場所：香南市市役所7階 議員控え室
- 出席委員：受田浩之委員長、田内修二副委員長、竹内淳委員、岡林八重美委員、宮崎利博委員、中脇正人委員、森川良奈委員、田中愉之委員、立仙裕二委員、百田年真委員、國松美紀委員、土居秀臣委員
- 事務局：浜田商工観光課長、岩田地域支援課長、小松農林水産課長  
西内企画財政課長、門脇企画財政課長補佐、中川、立仙

### 【次第】

1. 開会
2. 市長あいさつ（副市長代理）
3. 委員委嘱および自己紹介
4. 委員長選出（あいさつ）
  - ・受田委員長、田内副委員長で決定
  - ・委員長あいさつ
5. 令和2年国勢調査結果（速報値）について
  
6. 議事
  - (1) 令和2年度の目標達成状況（進捗状況シート）  
及び令和3年度の新たな取り組みについて
  - (2) 「魅力ある香南市をつくるアンケート調査」について

- 事務局 (1) 令和2年度の目標達成状況（進捗状況シート）及び令和3年度の新たな取り組みについて説明  
(2) 「魅力ある香南市をつくるアンケート調査」について説明

- 委員長 本来であれば議題一つ一つについて議論するところであるが、議事1の目標達成状況を子どもたちや若者がどういう風感じていて、様々な施策がどういう風に反映されているか、それを踏まえて新たな取り組みについて議論いただいた方が、より実効性のある意見をいただけるという趣旨で、二つをまとめて報告をいただいた。ここからは先程の説明内容、資料1及び資料2-1の感想や、それに基づいて資料1の本年度の新たな取り組みや、更にはそれ以降の取り組みについて考慮すべきことを含めて、ご意見をいただきたいと思う。今回からの新任の委員もおり、他の委員の皆様はこれまでの議論や

経緯を踏まえてご意見をいただこうと思うが、初めて参加されているので分かりづらい所もあると思う。伺いたいのはこれまでのことも振り返りつつ、おさえておかなければいけないようなこととか、素朴な疑問や説明内容に触れていただいても結構です。

**■委員**

資料に目を通したが、とても分かりやすく、内容についても整備されたものであった。地域に帰った時に、子どもたちが過ごす場所が今ちょうど夏休みなので、地区のプールが老朽化で昨年からなくなったこともあり、のいち動物園の事業もとても魅力的であるが、やはり各地区ごとの子どもたちの居場所という所を考えていかなければならない。夏休みは子どもの声がしなくなっていて、学童クラブに子どもたちが集まっており、学童クラブでできるようなことであったり、子どもたちが集まれる場所を確保していくことが大事だと思う。また、自分のような外に出ていくような機会があり、市の取り組みなどの情報を得られる人は、自分の方からも情報収集していると思うが、情報を得ることが出来ない方とか、困りごとを相談できる方がいないなど、たくさんいると思うので、その方たちに向けての情報発信をどのようにしているのか伺いたい。

**■委員長**

前段にお話しいただいた各地区ごとの子どもたちの居場所、夏休みの時期を中心にお話をいただいた。学童クラブを中心に考えてみてもいいのではないかと、また先程の資料2-1のアンケートの中にも、子どもたちが遊ぶ場所あるいは公園など、いろいろな受け止め方があるが、香南市の中でそれぞれ子どもたちが、活動する拠点のようなものが求められているようである。のいち動物園も含めてご当地においては、いろいろな施設があることも一方では事実であり、割と恵まれた環境にいるのではという見方もできると思うが、一方で主役である子どもたちはもっと遊び場所が欲しいとか、非常に大きな憧れを抱いているのもあり、この辺りをどういう風に全体として取り組んでいくべきか、なかなか悩ましい所でもある。地区ごとの子どもたちの居場所という点でどうお考えか。

**■事務局**

人生支援計画の方では、幼年期・就学期部会というのが高校生を卒業するまでの部会としている。その部会が取り組むテーマの一つとして、「子どもたちの居場所づくりプラス」ということで取り組んでいる。まさにおっしゃられる子どもたちの居場所は学童クラブであったり、子どもを見守る環境であったり、公園であったり、そしてプラスがおっしゃられた情報発信であり、部会の中で具体的に考えるように進めている。その中の一つとして令和3年度よりのいち動物園の事業ができ、また今回の6月の部会で委員の皆さんから、子どもたちが外で遊ぶことはもちろんであるが、文教施設に将来を見据えて投資をしていくことも大事ではないかという意見があった。

**■委員**

部会では文教施設や公園のことなどについても議論している。急には実施にはならないが、かなりそれを推し進めようとする方向性である。

■委員長      こうやって子どもたちの居場所づくりを真剣に香南市として、あるいは委員をはじめ地域のボランティアの皆さん、教育に携わる皆さんなどが真剣に議論している所から生み出されるというものは必ずある。今のお話の中でハード的な整備の部分と、もう一つのソフトの部分はどういうふうに見ていくか、以前委員が土曜日の子どもたちの教育の場を、これはまさにソフトの部分でありコメントをいただいた。香南市のソフト、コンテンツとしてはお祭りであったり、一次産業の担い手の皆さんを中心に産業自体が、もしかすると大きな教育のコンテンツになっていくかもしれない。これからの様々なものをどう組み合わせていくのか、ここは是非委員の皆さんでアイデアを出していただくことを今後お願いしたい。情報の発信に関しては、この場でも議論しており、委員構成として固定化しないように、市民の皆様から繋りのある方、また委員会に参加したいという意思を持った方をはじめ、役職指定ではなく市長が必要と認める方というところで意欲的な広い世代の皆様が集まっていただいている。こういう話を普及していく方法の一環としてアンケートを考えたのはそこがきっかけにもなっていたように思う。つまり子どもたちにアンケートを実施するということは、保護者の立場でそのアンケートを廻って、子どもと会話が生まれていく、また学校全体でそれが話題になっていく。小学校6年生や中学校3年生で必ずこれが毎年繰り返されていくと、学校中が共有の話題で議論ができる。こういう形で子どもを中心に大きなうねり、巻き込む力をこのアンケートから、我々委員会として情報発信の手段に使えないかと議論してきた。ですからアンケートの最初の設問にまち・ひと・しごと創生総合戦略を委員からは小学校6年生には理解できるのだろうかという心配もあり、子ども版のバージョンまで作成してきた。一気になかなか進まないかもしれないが、この委員会でも委員の皆さんから同様の意見が出て、そして広げるための一つの手段としてこのアンケートはあるとお考えいただくと徐々にアイデアが出てくると期待している。

■委員      今回初めての参加であり、まだ内容が把握できていない。これから各委員の話聞きながらでお願いしたい。

■委員長      委員を継続していない立場で、ほんとうに率直な質問やご指摘をいただいて、なにか抜けている所、或いは盛り込まないといけない視点がこの中にさらに入っていくと非常に有効な計画となるのでよろしくをお願いします。

■委員      委員長のお話で、アンケートを取ろうとなったことを思い出していた。有効なサンプルが取れるのかという議論を何度も重ねて実施したと思っている。当時は自分の子どもも学校に通っており、幼稚園から中学校までこの町の学校に通ってきた。色々なものを蓄積した中で意見をさせていただいた。保護者として小さな問題を解決していくということが、地域の子どもたちにとってはすごく充実した生活が送れるようになるということを実感した。今は子どもが成人を迎える年代となり、目線も変わってきた。アンケート結果の15ページ、16ページの香南市の農林水産業は魅力的だと思いますかという

所と香南市は魅力的な働く場所があると思いますかという回答の中で「わからない」と答えたサンプルが多くあると感じた。他の所も全般的に「わからない」という回答が多かったが、この「わからない」という所を問題視していくことが必要である。町のことを子どもたちが知らないという結果に捉えている。自分の子どもも今は学校も職場も県外であるが、後々には経験を積んで帰ってきて暮らしたいと言っている。暮らしやすい場所は香南市と言っている。暮らすために必要なしごとという部分に関して、進路を決めるまでに、「わからない」という回答を少しでも減らしていくということが、この地域に残ってもらう、外へ出て帰ってくるということに繋がるのではないかと思う。これは行政だけではなく、保護者も一緒に町のことをわかってもらうことを家庭で行っていくことが大事である。

■委員長      それぞれの設問に対して「わからない」と答える項目が結構な比率であるが、おっしゃるとおりたとえば16ページの魅力的な働く場所があると思いますか?は「わからない」が40%を超えており、次のページの企業への支援、商店街の活性化、商工業への取り組みが充実しているかどうか?は、半分以上が「わからない」と回答している。これをどう見るかはいろいろな考え方があると思うが、「はい」以外は「いいえ」だと見る考え方もあると思う。この「わからない」という回答が「いいえ」の一つの表現であると捉えていけば、これを含めて「はい」以外の数をどういう風に受け止め、それを改善できるのかというのをおっしゃるとおり非常に重要な課題だと思う。例えば17ページの企業への支援、商店街の活性化、商工業への取り組みが充実しているかと思いませんか?の回答の「わからない」が小学校6年生よりも中学校3年生の方が多くて、それよりも18歳が多くなっており、「わからない」の本質の部分の年齢と、もしかしたら地区ごとにさらに分析してみると、本当の意見というものが分かってくるかもしれない。このあたりは課題として今回の結果を踏まえて、今年度のアンケート調査が比較するとどうなるか見ていきたいと思う。そして小学生と中学生の回答の背景にはたぶん保護者の想いも相当反映されている可能性があって、それがこの「わからない」に繋がっているとすると、これを見て一番感じないといけないのは香南市民として大人がこれをどう受け止めているか、市民としての自覚がさらに関わってくると思う。

■委員      教育のことに関しては力を入れてもらっていると感じている。教育以外の全体的なことであるが、香南市は観光・商業に関するいろいろなコンテンツがあり、魅力的なものがある。百年の計というわけではないが、香南市アイデンティティーといったストーリーというか、香南市といえばストーリーがあって、コンテンツをうまくまとめるような、香南市といえばこうなんだといったものがないと、香南市自体の個性がでないのかと思う。他の地域がどこもやっているので差別化でやるのであれば、香南市の物語が必要だと思う。香南市で仕事がなくとも高知市に通えばいい。ITなど働き方も改革されており、世界で有名なダンサーが高知に住んだり、これからの時代を見据えたITの時代をなにか大きなビジョンが必要かなと思う。

■委員長 参考資料1に人口ビジョンがあつて、香南市まち・ひと・しごと人口ビジョンの下に今委員がおっしゃったアイデンティティというか、香南市を表すキャッチコピーが「水・緑・風が輝く 豊かな暮らしと産業で 飛躍するまち香南市」でこれもそういう表現だと思う。おそらく委員のコメントは百年の計とおっしゃったので、ある意味今後百年香南市として他の自治体とは全く違うアイデンティティを凝縮する言葉やコピーもある。そういうのがあるとキャッチコピー下で香南市としての色、あるいは市民としてのアイデンティティや団結が見えてくると思う。まち・ひと・しごと創生総合戦略の議論というのが2060年に向かって徐々に39年しかなくなっているが、将来を見据えた時に、本質的な部分で香南市が目指すもの、あるいは香南市が築き上げてきたもののUSPを使って顧客視点の指名理由を浮かび上がらせる作業もあっていいかもしれない。それが子どもたちの居場所と、あるいはソフトのコンテンツと完全に繋がり、見える化していくことも今後考えていかなければならない。

■委員 資料2-1の香南市は魅力あるまちだと思いますかの問いで、小学生と中学生ほとんど魅力があると答えている。魅力があるまちだということを考えながら、次の災害に対して安心できるまちですかという問いは、赤岡町・夜須町・吉川町の半分以上は危険だと感じており、やはり津波への対策が必要と回答している。逆に野市町・香我美町についてはコミュニティについてなどの意見がある。そういう状況で香南市に残ってほしいというもおかしな話で、地域によって子どもたちが求めていることも違う。このアンケートを基に対策を考える時に、地域ごとの不安なことを解消しないと良くはならないと思う。不安をまず解消していくことが必要だと思う。

■委員長 すごく重要なところをご指摘いただいた。魅力的であるけれども不安な要素が災害に対してということが、地区ごとに非常に明確になっている。不安をどれだけ払拭できるかというのは極めて重要で、香南市のみならず日本全体で不安が出发点になっていて、この不安の解消をなくして発展がないところまで来てしまっている。ですから今回のアンケートをどういう風に考察していくか、一つ非常に重要な点が「不安の解消」である。今さらに良くする要望もちりばめられているが、まずは不安の解消から取り組んでいくのも重要な視点だと思う。

■委員 津波のシミュレーションに携わった時に、津波の影響は地形そのものが大きく影響する。地形的に危険だという場合は、少々の対策をしたところで危険であることは解消されない。このようなため安全は確保しにくいのだけれども、そうすると安心感をどう広めるかである。ほぼ確実にできるのが津波避難タワーということで県の施策として造ってきた。物はできたので訓練で実際に子どもたちが登ってみるとか、夜間にやってみるとかということで安心感を増やしていくという方向ではないかと思う。なかなか難しい所もあるが、一方で津波がきた後に長期浸水の恐れのあるのは高知市であり、香南市の津波の来ないところに逆に人口集積が進んでくることも考えられる。そういうことも今

後のまちづくりの中で念頭に置いておき、海岸部の安心感を高めるとともに震災後の県内の人口配置のことも考えながら進めていくことが大事だと思う。

■委員長 地形に起因するという所で如何ともしがたい部分はある。そういう意味では安全という所をハードで対策するのは限界もあるという前提で、津波避難タワーにソフト的な訓練を繰り返すことによって、いざという時に対するしっかりとした初動と、それから常に訓練によって最悪への備え、これによって安心感を増していこうということ。一方で後半のお話は、以前にこの委員会でゾーニングの話はかなりした。一定ゾーニングの話をしながら沿岸部と内陸部あるいは標高のある程度高い所があって、そこをエリアごとに分けていこうという考え方を議論していた。ゾーニングをしていこうという方向性までだいたい色分けができていた。その後実施に向けてどのように進んでいるか。

■副委員長 ゾーニングという中で一つは津波の来ない所への新たな住居地の整備がある。すべてがなかなか一気に進むわけではございませんし、公共が直接やるのか誘導していくのか、またアンケートでもあったように不安はあるけどやはり海岸部に住み続けたいという方も一定おられる。その中で市として今新たな形として、まずは一定の住宅団地の整備をしようということで、まず第一弾として現在香我美庁舎の近くに整備をしたいということで候補地として議会とか地元の説明をさせていただいた所である。まずそれを第一弾として、そういう整理も含めながら進めている。ただそれと並行して、それより強く進めていかないといけないのは、委員もおっしゃったように今直面している防災対策で、これは津波避難タワーも大部分は整備されてきましたがまだまだ残っているところもありますし、避難タワーから次にどこでっていう部分もなかなか数が足りていないところもある。総合的にしっかり進めて行くのが今の市の考えである。

■委員長 今のゾーニングに基づいて市としての計画をどういう風に進めていくか、少しずつ動いている部分があるという話であった。これをこのアンケートから見ると不安が非常に多く聞かれるわけですから、市として、あるいは市民として大人がどのように考え対応しようとしているかを、そのためには一気にこれを解決することに対する困難もこんなにあって、たとえば資料1-9に自主防災組織のここが、ソフト的にみると極めて重要になってくるとすると目標値に対して届いていないとは、どういうことなのかなどずっと繋げていって、まさに資料1が子どもたちへの不安の払拭に繋がるようなきっかけになっていけば、冒頭申し上げた議題1・2が完全に連動していく。この辺りを意図的にしっかりと説明できるように、この資料1を表現していくことも重要で、委員がおっしゃったように情報をいかに子どもたちまで、分かりやすく届けていくかまで考えていくと、同じことをやっても市民への到達度合い、理解度がまったく変わってくる。それこそが具体的な戦略になってくる。

■委員 今回嬉しかったのはアンケートの中で、農林水産業に対する魅力について、多くの方

に魅力があると答えていただいた。これも学校教育の一環として小学生3年生4年生の時に農業体験といった授業があった。ピーマン部会をやっているが、ピーマンとししとうの収穫体験をやっていただいた。赤岡小学校・吉川小学校の児童を対象にしてやっている。野市小学校の場合は4年生か5年生に稲を作って稲刈りの体験をして、お餅をつくという授業も続いている。こういった体験授業をやったために、子どもたちが農業に関心を持ってくれたと嬉しく思っている。保護者も子どもたちが収穫することを期待しており、嫌いな食べ物を食べるようになったなど、こちらもやったかいがあったと感じている。夜須小学校ではメロンの授業もやっているはずだと思う。

■委員 夜須小学校は6学年6品目の授業を行っている。それと農協の青壮年部を主体に、もち米の田植えや稲刈り、餅つきまでの体験を実施している。

■委員 保育所・幼稚園については芋掘り体験も実施している。こういったことで、子どもたちが特に農業に関心を持っていただいているのは嬉しいことで、続けていかなければならないと思っている。

■委員長 こういった農業体験あるいはそれを餅つきといった形で加工していくようなお話。五感に訴えるような体験がご当地において非常に活発にこれまでも実施をされ、そしてずっと継続されていることが、資料2-1の15ページの農林水産業が魅力的であるという回答が多かった背景にあるとすると、例えばこれを実際にもっと強化するとか、地区ごとで比較をしながら、こういう体験をやるとうどんな風に体験をした子どもたちが感想を持つのか、今回の事務局の負担に対してこれを活かしていく具体的な方策が考えられる。よく介入試験という言い方をするが、仮説を立てて、こういうことをやるとこのアンケートにどういう風に跳ね返ってくるか、例えばこの農業体験が活発なことが、この一次産業に対する魅力の理由であるとするならば、これを仮説として、この地区の小学生に具体的にやってみるとその地区の数字が非常に伸びていくとか、あるいは何をやるかによって数字の伸び方は違うとか、仮説を立ててそこにある取り組みを実際に施行してみて、その数字の変化をずっとモニターしていく。それが施策的に一定の予算を投入して、一次産業の魅力に繋がっていく立証になれば、EBPMである証拠に基づいて政策立案していく、この数字によってPDCAを回していくことができれば市としても予算的な投入のメリハリや有効性・実効性が具体的に議会や市民の皆様の説明ができるということで、さらにメリハリをどうつけていったらいいかということまで展開していくと思う。市民の世論という所で、この若い世代の意見をずっとモニタリングしていきながら、政策がどういう風に効果的に講じられていくかというのを具体的に理解していく一つの基盤が築けていると思う。アンケートを見ると香南市の魅力の一つとしてイベントやお祭り、文化がありここは相当大きな声が寄せられているように思う。

■委員 資料2-1の間10-1の香南市に魅力ある文化や好きな祭りはありますかという

問いの具体的な理由の回答に、赤岡であれば絵金祭りやどろめ祭りや冬の夏祭り、野市であればみなこい祭りや田園祭などやはり地元のお祭りを上げている。自分もこの2年間くらいお祭りが中止となり出店できていない状況で、また商売を営んでいる方も出店もできない状況でダメージを受けている。商工会の青年部に属しており、絵金祭りなどでビアガーデンを実施するにあたり若い青年が多く集まって実施していたが、最近是人が足りなくなっている、それは商売が影響していて家業を継いでいないとか、地元の商店街がシャッター街となり廃業となっていることもある。アンケートを見てみると児童や生徒は減っているが、コミュニケーションをとることができている。赤岡小学校に通っている子が香我美中に行くとか、野市中学校に部活に行けるとか、自分の時代には考えられなかったがとても良いことであると思う。スポーツも盛んになってきておりサッカーのクラブチームもでき他校同士の交流もできている、そういった子どもたちが今どういう風な感じでお祭りを感じていて、またお祭りを地元の人ができないのであれば、どういう風な集まりで連携を取って実施していくのか課題だと感じている。問16を見ても小学校6年生から18歳まで様々な職業がでていたがやはり商売などは人気がない、これはコロナも影響していると思うのでこれから仕事や地元が活性化するくらい祭りを実施しないといけないので、早くコロナが終息しお祭りを実施していきたい。

#### ■委員長

私もこのアンケートを拝見して、香南市はこういうお祭りを含めてすごいメニューが豊富であると感じている。前もここで議論になった地元を愛する気持ち、地元愛をどういう風に育てていくかというのが、ある意味究極の将来を担っていく若い世代に伝えたいメッセージや残したいことだとすると、そこに繋がっていくものが大体このアンケートに意見が出されている。今委員がおっしゃっていただいたようにコロナの影響が相当重くのしかかっている実態をどう捉えて、そして先ほど委員からもデジタル化のお話もあったが、ウィズコロナ・アフターコロナとしてどんな手段を講じながらコミュニティの維持あるいは発展、あるいは文化や様々なスポーツも含めて維持をしていくことについて議論していくことは絶対必要である。今ここで画期的な名案はないにしてもコロナが長引けば香南市にとってプラスになることはなくマイナスになる部分が相当大きいということであれば、それを皆さんでどう克服するという所を議論していく、貴重なデータとして活用していただくこともこの場における一つの提案かと思う。コミュニティをどういう風に維持していくというのは全国的に非常に重い課題となっている。コミュニティを維持するためには、そのコミュニティに集う人たちに共通する目標がないといけないと一般的に言われていて、その目標が無くなっていったり、希薄化していくことによって、その目標を中心に繋がっていくメンバー同士の信頼関係が無くなっていく。ですからその中心にお祭りや文化あるいはスポーツが当然あり、地元愛に繋がるこの貴重な宝をどう継承、維持、発展していくかという所を是非アンケートの結果からさらに考えていただきたいという委員のコメントを聞いて感じたところ、市としては文化・お祭りの今後に関してはどうお考えか。コロナの影響が短期的には深刻であり、中長期的に見てもここに関わる方々をどう維持確保していくか、あるいはさらにいろいろな形で

財政的な面も必要になってくると思うが、市としての支援これに関してどうか。

■副委員長 お祭りやイベント、文化も含めましてしっかり継承していく必要があると考えている。今日の新聞にコロナ禍においても手結の盆踊りを雨天の中、縮小してしっかり今までやってきたこと、受け継いできたものはずっと残していこうということですので、しっかりそういう部分には支援をしていきたいし、また各地域ごとのコミュニティの形成につきましても、やはり地域地域で昔からあるお祭りや文化をしっかりと残している、また今もやっている地域はやはりコミュニティという部分で非常に強いという見方をしています。今後ともそこにはしっかり支援をしていきたいと考えている。

■委員長 是非今、副市長がおっしゃったように地区の特徴を表現するお祭りや文化やスポーツのいろいろなことを通じてコミュニティの結びつきがどうなっていくか、あるいはそれをさらに盛り上げていくためにはどうしたらいいかというような所を、こういうアンケートと上手く組み合わせながら市の施策として考えていただきたい。

■委員 25年程前にケーブルテレビの開局をおこない、その際の撮影などは三世代の交流とか、小さいお子さんとお年寄りが交流して昔遊びをしたりなどがかなりあったと思う。それが高齢化や引き継いでやる方がいなくなったりで、どんどんなくなっていくのが残念だと思う。地域の皆で子どもを育てていったりとか、子どもたちとふれあうことで生きがいとなったりすると思っている。娘が県外の大学で進学しており、今は都会生活を楽んでいるが、やはり就職は高知に帰ってきて、地元愛というか自然も豊かで、子育てするのも環境が良く、空港や高速道路が近く高知市内にも近いということで卒業後は高知に帰ることを希望している。ただ就職先があるかとか、ふるさとテレワークなども普及してくるかとは思いますが、職種とが業種によっては高知での働き口がどうかっていうのを思っている。各設問にわからないと答えているのを見て、地域のケーブルテレビとしてもっと情報を流さないといけないと感じた。

■委員長 今委員がおっしゃった「わからない」というところを一つケーブルテレビさんとしての番組の目的の一つとして位置付けていただくのは大事なことだと思う。公共の交通機関の話が相当このアンケートの中に書かれていて、先程交通という言葉がでてきましたが、ここに関しては市としてもかなり大きなテーマとして位置付けなければならないと思うが、公共交通関係に関してどうか。

■事務局 香南市の中では市営バスがメインとなっている。ただ香南市は皆さんご存じのように利便性の高いという所でごめんなはり線、空港が近い、高規格道路の公共交通の接点という所がある。また同じような道路を様々な交通機関が走っているのも課題でありますし、またタクシー業者さんというのもこの中にある。そういった課題を受け止めまして今年度やはり持続可能な公共交通を目指すという所で、香南市にあるすべての公共交通を複合的に組み合わせて持続可能な公共交通を作っていく地域公共交通計画について

目標をもって立て、KPIを立てながら一つずつ進めて行きたいと考えている。

■委員長     そこは市民目線で進めていただいて、具体的な利便性をどこまで追求できるか、また子どもたちや若い世代がそれにどういう風に反応するかしっかり経時的に見ていっていただきたいと思う。公共交通政策に対して様々な評価の仕方はあると思うが、ユーザー視点に立った時に、こういうアンケートの意見をしっかり反映していることになっているか、あるいは市がこれまで手段としてこれまで活用されているモニタリングが若い世代から見て実態に合っているのかどうかという所を綿密に考察していただきたい。

■委員     資料1-4の商工業の振興の部分であるが、県の産業振興計画地域アクションプランの取り組みに該当している部分がありまして、その中で魅力ある商業地・商店街づくりということで地域アクションプランの方にも商店街等振興計画の策定を位置づけている。協議会を立ち上げて会議をし、協議会を立ち上げていくが、今年の11月末までというのは実はまだ協議会が立ち上がっていませんので策定期間が遅れると思っている。今の予定では年度末くらいになると考えており、できるだけ早く策定できるように取り組みを進めていきたいと思っている。またアンケート調査を昨年度から実施して、委員長の冒頭のあいさつにもあったが、どう施策に反映させていくかという部分で資料2-2で今年度のアンケート調査についてのスケジュールも2ページ目にでている。昨年度のアンケートのまとめも資料2-1として見せていただきましたし、ご報告もいただいた所であるが、今年度のアンケートも含めて施策にどう反映していくのか、単年単年でそれぞれ、例えば2年、3年、4年間のアンケートを基に市として予算化をして、今回のアンケート結果でも市としてできること、できないこと当然あるが、市としてできることについても短期的にできることや長期的に時間をかけないとできないこともあるので、今後のアンケートに基づく施策の反映のスケジュール感とか予算について市で議論をしていただいて次回の策定委員会で検討状況が決まっておれば報告いただけたらと思う。次回は2月ですので県の施策とのリンク的なことでは時期的には微妙であるが、県の方でもそれぞれの市町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略の支援を行なうこともあるので県としてもどのような支援ができるのか検討したいと思っている。

■委員長     後半におっしゃっていただいた内容については是非施策に反映して具体的なアクションプランへ落とし込んで頂きたい。そのPDCAを予算を含めて、5W1Hを明確にしていくことが非常に重要で、PDCAのサイクルを更にアンケートで確認していくという所までいけば非常に大きな進展があるのではないかと思います。

■委員長     様々なご意見をいただいた。市への要望という所も随所に伺い、そこは受け止めていただき、また今日のこの時間で全て語り尽くせていないと思うので、随時委員としてコメントがあれば事務局へお伝えいただきたい。この委員会としてどういう風に考えるかという所は、事務局と委員長として適切にどう反映させるか考えさせていただきたいと

思う。このアンケートを基に活発にいろいろな視点からご意見をいただけるようになった。今年度から新たなメンバーをお迎えし、新たな気持ちでこの総合戦略を進めていただきたいと思います。冒頭事務局からあったように高知県も5年で5.0%の人口減少ですから1年に1.0%人口が減少している県となってしまっている。それを下げ止める極めて重要な防波堤の役割を香南市が努めている。それを防波堤どころか、改善というか人口に対してもっと大きな貢献をしていただくような魅力的な市を目指して市民の皆様と一体となって、さらにご尽力いただければ幸いである。

- 委員
- 観光の件について、イベントの件や地元の子どもたちも魅力があるということで、香南市における観光というのは、必ずイベントと一緒にしているという印象がある。赤岡町や夜須町のように特徴的なお祭りがある所に関しては、観光の魅力というものも子どもたちに浸透していると印象を受けた。今イベントがなされないということは、今この時期に観光というものを活用して、この地域の魅力をイベントだけではない、いつ来ても楽しめる地域だということを私たち観光に携わるものは、今コツコツとさせていたでいるところである。今後イベントが開催した時に、観光で来ていただいた方がこういうイベントもあるんだということで、お客様をイベントに来ていただくように、待っていただく状況にしていくという所が、観光をさせていたでいるDMO協議会にとっても課題だと感じている。

## 7. その他

- (1) 今後の策定委員会のスケジュールについて

## 8. 閉会